

2000年前のメシヤ像

それでは、2000年前のユダヤを見てみましょう。そこには律法学者がいて、市民全員に律法を教えることに力を注いでいました。律法学者というのはバビロンで生まれています。なぜなら神様の律法を守らなかつたゆえに、ユダヤの民は捕囚に連れて行かれたからです。彼らは常に、「メシヤが来たら…」と教えていました。この時代、人々はローマから圧迫されていたからです。例えば、当時ローマ時代の税金は、実に75パーセントでした。一生懸命働いたその報酬の4分の1だけが自分のもの、その他全部は取られるわけです。人々はどれほど苦しい生活をしていたでしょう。だから人々は「メシヤが来たら、ローマから解放してくれる。」という言葉に非常に期待していました。又、生まれつきの盲人達や耳が聞こえず口がきけない人達、そして、らい病の人々はメシヤが来た時でないと癒されないと考えられていました。

次の聖句は、バプテスマのヨハネの弟子とイエス様の問答です。「さて、獄中でキリストのみわざについて聞いたヨハネは、その弟子たちに託して、イエスにこう言い送った。「おいでになるはずの方は、あなたですか。それとも、私たちは別の方を待つべきでしょうか。」「イエスは答えて、彼らに言われた。「あなたがたは行って、自分たちの聞いたり見たりしていることをヨハネに報告しなさい。盲人が見、足なえが歩き、らい病人がきよめられ、つんぼの人が聞こえ、死人が生き返り、貧しい者には福音が宣べ伝えられているのです。だれでも、わたしにつまづかない者は幸いです。」マタイ11:2-6

イエス様は、「はい、私です」とは言われませんでした。「私はメシヤです」と自分で言う者は偽メシヤです。しかし、メシヤしかなすことのできない奇跡が目の前でなされていきました。ほぼ100パーセントのユダヤ人がメシヤを待ち望み、救われる用意ができているところへお生まれになったのがイエス様です。メシヤには「ダビデの子」、また「らい病の癒し主」という名前がついています。死人を生き返らせるのは旧約の預言者もしていましたが、らい病を癒すこと、生まれつき目が見えない人、耳が聞こえない人、口がきけない人、足なえをいやすことはメシヤにしかできませんでした。実際に、イエス様はこのようないやしの奇跡を何度もなさいました。ですから、疑う余地もないほどにイエス様はメシヤであったわけです。では何故、パリサイ人達はメシヤだということを受け入れなかつたのでしょうか。それはパリサイ人達は、メシヤは絶対にパリサイ人の中から現れると言いつけてきたからです。ところがイエス様はパリサイ人を何度もお叱りになりました。そこで彼らは腹を立て、こういう者がメシヤであるはずがないと言いつ張ったのです。ここで次の聖句です。「また、いばらの中に蒔かれるとは、みことばを聞くが、この世の心づかいと富の惑わしとがみことばをふさぐため、実を結ばない人のことです。ところが、良い地に蒔かれるとは、みことばを聞いてそれを悟る人のことで、その人はほんとうに実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結びます。」マタイ13:22-23

イエス様は100パーセント神様であり、尚且つ、100パーセント人間でした。地上を歩まれた時は100パーセント人間ですが、神様としての働きは聖霊様によって行なわれていました。

民族的に赦されない罪

「異邦人は彼の名に望みをかける。そのとき、悪霊につかれた、目も見えず、口もきけない人が連れて来られた。イエスが彼をいやされたので、そのおしはものを言い、目も見えるようになった。群衆はみな驚いて言った。「この人は、ダビデの子なのだろうか。」

これを聞いたパリサイ人は言った。「この人は、ただ悪霊どものかしらベルゼブルの力で、悪霊どもを追い出しているだけだ。」イエスは彼らの思いを知ってこう言われた。「どんな国でも、内

輪もめして争えば荒れすたれ、どんな町でも家でも、内輪もめして争えば立ち行きません。もし、サタンがサタンを追い出して仲間割れしたのだったら、どうしてその国は立ち行くでしょう。また、もしわたしがベルゼブルによって悪霊どもを追い出しているのなら、あなたがたの子らはだれによって追い出すのですか。だから、あなたがたの子らが、あなたがたをさばく人となるのです。しかし、わたしが神の御霊によって悪霊どもを追い出しているのなら、もう神の国はあなたがたのところに来ているのです。強い人の家にはいって家財を奪い取ろうとするなら、まずその人を縛ってしまわないで、どうしてそのようなことができましょうか。そのようにして初めて、その家を略奪することもできるのです。わたしの味方でない者はわたしに逆らう者であり、わたしとともに集めない者は散らす者です。だから、わたしはあなたがたに言います。人はどんな罪も冒洗も赦していただけます。しかし、聖霊に逆らう冒洗は赦されません。マタイ12:21-32

全能の神であり創造主であるイエス様に対して、「メシヤがなすべきことを、あなたはベルゼブルの力でなされている。」と彼らが言ったことを、赦されない罪と指摘されました。マルコ3章を見るともっと理解できます。<マルコ3:23-30>この赦されない罪は、個人的には起こりません。しかし、民族的には赦されない罪というのがあるんです。エジプトから出てきて荒野を歩んでいる時、民は神様に何度も文句を言いました。神様はその都度その文句を飲み込まれて、民を祝福しましたが、10回目にもう許さないというところまでできてしまいました。ここからはこの世代の者たちが全員死んでしまうまで約束の地に入れない、と言われたのです。

しかし、神様はイスラエルの民を全滅なさいません。アブラハムとの約束があるからです。ですからこの世代の者だけが赦されないということになるんです。ソドムとゴモラの場合は、子どもであろうと全滅させられましたが、ユダヤ人の場合はこの赦されない罪を犯した世代の者だけが赦されず、回帰不能になりました。イスラエルは、ここで再び民族的に赦されない罪を犯してしまったのです。このベルゼブルという言葉はそれまでに何度か使っていますが、イエス様はこの時、もう赦さないというところまできました。なぜでしょうか。想像してみてください。市民全員が、「この人はメシヤではなかるうか。」と騒いでいるのです。ですから、そこで律法学者が、「いや、違う。これはメシヤではなく、悪霊がやっているのだ。」と何度も言い張るのを聞いてうちに、とうとう市民は、「先生方がそうおっしゃるんだからそうかもしれない。」と言って、回帰不能になったのです。

御国の扉を閉じたパリサイ人

次に、イエス様が律法学者とパリサイ人達に語った言葉です。「しかし、忌むべきものだ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。あなたがたは、人々から天の御国をささげているのです。自分もはいらず、はいろうとしている人々をもはいらせないのです。」マタイ23:13

この箇所はじっくり読むと腰を抜かすほど驚くほどの御言葉なのです。なぜなら、人間である律法学者パリサイ人が神の御国の鍵を持ち、神の御国の扉を大きく開けているなら、自分も入り、入りたい人も入れることができたと言われているからです。ところが、彼らは、その扉を閉めて、自分も入らず、入りたい人も入れなかつた。だからこそイエス様はお怒りになったのです。先ほど申しましたように、2000年前、ほぼ100パーセントのユダヤ人がメシヤを指折り数えて待っていました。イエス様がすべてお膳立てができたところにお生まれになり、メシヤにしかできない奇跡をあちらこちらで行なわれました。そして、群衆は「この人がメシヤだろうか？ダビデの子だろうか？」とざわめいているのですから、このパリサイ人達が「そうです！」といったらどうなりますか。これは鶴の一声です。ほぼ100パーセントの人たちが大急ぎでイエス様のところにやって来て、ひざまずいていたでしょう。そこにいた人たちのみならず外国に住むユダヤ人も皆、そのことを聞いて大急ぎでイエス様のところに来たことでしょう。